

# 令和7年度自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立郡上特別支援学校

学校番号 112

## 自己評価

学校教育目標等
(1) 校訓 あかるく なかよく たくましく (2) 学校教育目標 一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「自立する力」「豊かな人間性」「健やかな体」を育て、夢や目標の実現に向けて生き生きと活動する児童生徒を育成する。 ① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に主体的に取り組むことができる児童生徒 ② 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会の活動に参加できる児童生徒 ③ 健康の増進と体力の向上に努め、生き生きと活動できる児童生徒

### ※記入凡例

<成果と課題> ◎：重点事項 ○：成果 ●：課題  
 <評価> A：達成できた B：概ね達成できた C：やや不十分であった D：不十分であった

領域	重点項目	具体的取組及び成果と課題	評価
学校経営 組織運営 各部重点	◎児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア発達を促す教育の推進。 ◎地域と連携し、地域と共にある学校づくりの推進 ◎児童生徒の命を守るための教育の推進と危機管理体制の構築。 ◎全教職員が、生き生きとやりがいをもって働ける職場。 ◎誰もが働きやすい職場。 ◎業務の適正化・効率化など働き方改革への意識の向上。 ◎小学部 仲間や教師との活動を通し、人と関わることに楽しみや喜びを感じ、自信をもって学習や生活に取り組める児童を育てる。 ◎中学部 仲間の良さを認め合い、目標に向かって主体的に活動できる生徒を育てる。 ◎高等部 一人一人が夢や希望をもって主体的に学び活動し、自己実現に向けて自信と豊かな人間性を育みながら、地域社会の一員として自立し共生できる生徒を育てる。	○研修主事を中心に校内研修を推進し、職員の対話により、多角的な視点で児童生徒の内面を見る姿勢が増えた。 ○地域住民、地元企業や行政とのつながりを大切にして、各行事において積極的に地域と連携し、行事を計画できた。 ○児童生徒が自分で身を守ることができるように、命を守る訓練、情報モラル教育、防災教育を実施した。 ○働きやすい職場づくりを目指した研修で意見交換を行い、職場環境づくりにつながる取組を職員一同で考えた。 ○校長面談やハラスメント調査等で職員の声を聞き取り、働きやすい職場づくりに努めた。 ○より良い職場環境へ改善するため、校内業務や会議の見直しを図るとともに、生成AIの活用に取り組み始めた。 ○発言が増えたり、場面設定によってジェスチャーやカードを使ったコミュニケーションが定着したりと、思いを伝える姿が増加した。【小学部】 ○行事への取り組みを積み重ねることで、日常生活でも仲間を応援したり、認め合ったりする姿がよく見られるようになった。【中学部】 ●朝運動を毎日継続しているが、暑さや寒対策等で、運動の機会の制限があり、運動量不足が懸念される。また、体重増加傾向の児童生徒が多く、食生活への指導・運動の機会の確保が課題である。【小中学部】 ○生徒同士で話し合っ課題解決に取り組む場面や考える場面を意図的に設定することで、課題を理解して改善しようと向き合う姿や主体的に学ぶ姿につなげることができた。【高等部】 ○市内イベントや校外活動、企業内作業学習や現場実習、地域交流を通して、地域とつながり、多様な他者と関わる力や地域に貢献して働く意欲を高めることができた。【高等部】 ●部の重点について、卒業後の姿を見据えた指導内容や方法、到達イメージ等が曖昧なため、教員間の共通理解と具体化が課題である。部の重点達成に向けた教員の資質向上も課題である。【高等部】	B
教科指導	◎体験的な学習を仕組み、ICT機器の活用を通して、児童生徒の主体性や生活に生かせる実践的な力を身に付ける学習の充実を図る。 ◎新しい時代に必要となる3つの資質・能力を育成するために、児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、個に応じたきめ細かな指導を行う。	○校外学習、地域交流、学校間交流など体験的な学習を多く仕組み、ICT機器や視覚支援を取り入れながら、児童生徒が主体的に取り組める学習指導ができた。 ○児童生徒と対話や関わりを大切にして、内面の捉えに基づいた指導をすることができた。 ○育成すべき資質・能力の3つの柱のバランスを意識した指	B

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の物事の見方、考え方を豊かにし、学びに向かう力を育成するために、対話や関わりを大切にしたい指導の充実を図る。</li> <li>・主権者教育、消費者教育等の現代的課題に応じた学習の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導と評価の年間計画の立案ができ、学習指導に生かされた。</li> <li>○校務支援システムの活用により、学習指導要領における教科目標、内容の履修意識を高めることができた。</li> <li>○高等部を中心に、マナー、金融、社会の仕組みと制度についての講習会を計画し、自立に向けての学習につなげることができた。</li> <li>●小学部から高等部までの教育課程の系統性を図る必要性がある。単元配列表を活用し、整理を進める。</li> </ul>	
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎キャリア・パスポートを活用し、学校生活全般において教師が児童生徒と対話的に関わりながら、新たな気付きや自己の生き方につなげる力を育成する。</li> <li>・児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリアの発達段階に合わせた指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の内面を捉え、キャリア発達を促す支援を意識することで児童生徒の成長を促し、自己肯定感の育成につながっている。</li> <li>○小学部、中学部では、キャリア・パスポートを教室で管理することで、児童生徒にとって身近で活用しやすいものとなった。</li> <li>●キャリア・パスポートの様式の見直しや活用の検討を図る場がなかった。より活用し深めていけるよう、位置付けや推進方法の検討が必要である。</li> </ul>	B
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎岐阜県や郡上市の魅力を理解し、地域の人と触れ合いながら地域に愛着をもち、貢献できる児童生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部とも積極的に地域と関わりをもつ学習を実施することができた。来年度も地域と関わる機会を設け、郡上市や岐阜県の魅力を発見できる学習を計画立案していく。</li> </ul>	A
総合的な学習（探究）の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の生活、進路、地域に関する学習等に継続して取り組むことで、児童生徒がよりよく課題を解決する力や主体的・協働的に取り組む態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさと教育、交流及び共同学習を中心に取り組み、情報収集をし、体験的な学習をすることで、地域の伝統や文化の理解や同年代の生徒との関わりを深めることができた。</li> <li>●「地域社会にどう貢献できるか」を考える力の育成が課題である。</li> <li>●総合的な学習（探究）の時間だけでなく、教科横断的に捉え、各教科にも生かした学習指導を目指す。</li> </ul>	B
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎児童生徒が自己理解を深め、自分のもてる力を最大限に発揮しようとする主体的な態度を育成する。</li> <li>・各教科と関連付け、教育活動全体を通して効果的な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高等部では生徒自身が目指す姿を明確にし指導したことで、日常生活の中でも生徒が目標を意識して過ごす姿が見られるようになった。</li> <li>●指導と評価の年間指導計画の様式変更に伴い、個別の教育支援計画の実態と目標とのつながりや、年間を通した目標の捉えづらさがあった。児童生徒個々の実態を適切に捉えた上で目標を明確にし、年間を通した指導を意識できる指導と評価の年間指導計画の様式を検討する。</li> </ul>	B
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、道徳的な判断力、実践意欲と態度を育成する。</li> <li>・仲間や地域の人々との触れ合いを通して、命を大切にす心、相手を思いやる心、感謝する心を育て、温かい人間関係を醸成する。</li> <li>・体験的な活動を通して、自己を見つめる力や社会生活のルールを身に付け、強く明るく生きようとする意欲と態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校祭では、小学部から高等部の児童生徒が協力し合って取り組み、異年齢集団との交流の場を設けることができた。</li> <li>○安心して学校生活を送れる教師と仲間との関係性を築き、自己理解と他者理解を深め、自分と相手を大切にす心を育むことができた。</li> <li>○学校生活全般でルールやマナーを理解し、自立に向けた態度や力を養うことができた。</li> <li>●学級、部の集団や地域社会の一員として、役割意識を果たそうとする態度の育成を目指す。</li> </ul>	B
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学級活動、生徒会活動、委員会活動等を通して、仲間と協力し、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会・生徒会活動では、仲間と同じ目的をもって考え、話し合い、協働活動を実施する中で自主性や仲間意識を育むことができた。</li> </ul>	A
ICT活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎障がいの状態や特性等に応じた個別の支援ツールや学習活動でのICT機器の効果的な活用を通して、生活や学習に必要な情報活用能力を育成する。</li> <li>・業務の効率化や効果的な学習指導のために、職員研修の実施、活用事例の共有を図ることで、教職員のICT機器活用のリテラシーを高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の特性に応じたICT機器の活用により、教科学習への意欲や日常生活への見通しに繋げることができた。</li> <li>○指導者用タブレット端末の整備に伴う使用方針、児童生徒用タブレット端末への学習アプリの導入等、ICT活用の環境整備ができた。</li> <li>●校内研修やICT機器の活用事例等の情報共有が不十分であった。情報発信の工夫と計画的な研修が必要である。</li> </ul>	B

指導力向上	<p>◎児童生徒のキャリア発達を目指し、児童生徒の内面を丁寧に捉え、教員間で深め合うための研究を推進する。</p> <p>◎学校や個々の課題解決のために、対話を重視し、主体的に教員間で学び合う研修・研究を実施する。</p>	<p>○教員のニーズに応じた研修を計画、実施することができた。</p> <p>○公開授業をもとに児童生徒の内面を捉え、教員間で対話する取組を行い、児童生徒の内面の捉えの広がりや習慣化、授業改善につながった。</p> <p>●教員のキャリアステージと役割に応じた適切な研修の場を設定する。</p> <p>●研究の視点が「教員の対話」であったため、児童生徒の成長や変化の捉えづらさがあった。研究の視点を「児童生徒の成長」に置き、全学部共通の方針を目指し、よりよい授業作りにつながる仕組みを作る。</p>	B
健康教育	<p>◎児童生徒が自らの健康、心身の成長、発達に関して適切に理解し、行動できる力を育成する。</p> <p>◎生涯にわたって、健康で健全な食生活を実現できる知識と習慣を身に付けられるよう、家庭と連携して取り組む。</p> <p>・体育、健康に関する指導を通して、基礎体力の向上を目指す、運動に親しむ基礎を培う。</p> <p>・施設・設備の安全管理や緊急時対応の体制を整え、児童生徒の安全の確保を図る。</p>	<p>○歯科指導や手指衛生指導を実施し、健康維持のための基本的な技能を身に付けることにつながることができた。高等部では、外部講師による薬物乱用防止教室を実施し、身近な健康課題として学習することができた。</p> <p>○●栄養教諭を中心とした食に関する学習や、地域の方から直接学ぶ機会の設定により、食育の充実を図ることができた。また、給食試食会を実施し、保護者と健康的な食生活について共有することはできたが、習慣として身に付けられるようにさらなる連携が必要である。</p> <p>○学校周辺を歩く活動や部活動で継続的に運動に取り組む機会を設定し、体力テストの実施や大会への出場を通して運動能力の向上への意識を高めながら、基礎体力の向上を図った。</p> <p>○緊急時対応について、起こり得る状況を想定した訓練や対応方法を全職員が演習を通して学ぶ研修を実施し、緊急時対応の体制づくりにつながることができた。</p> <p>●ヒヤリハット・アクシデントの報告と周知を徹底し、児童生徒の安全確保への意識を高める。</p>	B
生徒指導	<p>◎実践的な不審者対応訓練や体験的な防災教育を通して、実際の状況に対応できる児童生徒の危機管理能力を育成する。</p> <p>・責任感や自信をもって主体的に活動できる児童生徒を育成する。</p> <p>・自他の生命を尊重する態度、倫理感や規範意識を育成する。</p> <p>・安全・安心な学校生活のためにきめ細かい教育相談体制を確立する。</p> <p>・SNSやネット上のトラブルに対し、適切に対応できるようにするための情報モラル教育の充実を図る。</p> <p>・いじめを含む諸問題に対する未然防止、早期発見のための組織的な対応を徹底する。</p>	<p>○危機管理マニュアルに基づき、計画的に各種命を守る訓練を実施し、様々な災害に対する行動を意識付けることができた。また、体験活動を含んだ地域と連携を図った訓練や防災教育を実施した。</p> <p>○集会・委員会などで児童生徒の自主的な活動の場を提供することができた。</p> <p>○連絡帳、心のアンケート等の各種アンケートなどを活用し、教職員、家庭、外部委員との情報共有を行い、問題等が発生したときの連携や迅速に対応するための組織作りができた。</p> <p>○警察による情報モラル学習を行い、規範意識を高めることができた。また、保護者からの情報をもとに、児童生徒の実態を把握し、自立活動の時間にSSTを活用して個に応じた的確な指導を行うことができた。</p> <p>●児童生徒の小さな変化にも気付けるように努めていく必要がある。また、いじめの定義などは、継続的に学校職員全体に理解啓発していく必要がある。</p>	B
進路指導	<p>◎「社会でたくましく働き続ける人」「地域に貢献できる人」を育成する。</p> <p>・夢や自信をもち、主体的に進路選択、進路決定できる力を育成する。</p> <p>・社会の情勢やニーズに適応できる実践力を育成する。</p> <p>・小学部段階から主体性、実践力を育む進路学習、キャリア教育に取り組む。</p> <p>・就労先、実習先の確保に向けた、就労支援ネットワークを拡充する。</p>	<p>○中学部、高等部では、地域の協力を得て、進路に関する行事等計画通りに進めることができた。実習や事業所見学、販売会等を通して働く力を育むことができた。</p> <p>○進路通信を2か月に1回発行、ホームページの更新、進路行事を全校の保護者へ案内等を行い、情報提供を行うことができた。</p> <p>○雇用対策協議会や学校見学会を通じて、企業の方々に本校の取組や生徒の様子等知っていただくことができた。</p> <p>○職員に向けて市内事業所見学会や進路研修会を実施した。進路指導についての知識を深める機会を提供することができた。</p> <p>●進路実現のために、職場開拓、啓発活動をさらに推進して</p>	A

地域連携	<p>◎学校祭や米作り、清掃活動等の学校と地域が共に参加する行事に取り組み、Gujo Smile サポーターズと共に地域に開かれた学校づくりを目指す。</p> <p>・学校間、交流籍校との交流及び共同学習、地域での活動を通して、地域の同年代の児童生徒との豊かな人間関係を築く。</p>	<p>いく。</p> <p>○おおよそ年間計画通り実施することができた。学校祭や大和校舎で実施した収穫感謝祭に例年よりも多くの地域の方の参加があり、地域の方に児童生徒の様子を見ていただくことができた。</p> <p>○Gujo Smile サポーターズの方による郡上踊り講習会や合唱指導など日常の授業の中で活用することができた。</p> <p>●Gujo Smile サポーターズの活用が課題。</p> <p>○学校間交流については、年間複数回実施することで児童生徒が打ち解けていく姿が見られた。</p> <p>●担当者同士の事前の打ち合わせを早期に実施する必要がある。</p>	B
------	--	---	---

**学校関係者評価** （令和8年1月29日学校運営協議会実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く力を大事にしており、体験活動重視の指導がよい。学校での学びが広まり、深まっていることが分かる。</li> <li>・地域との交流活動の場を提供している側として、生徒の成長を実感している。継続することが大事。</li> <li>・学校での取組と社会に出てからの活動をつなぐことが大事。</li> <li>・学校では、次につながることを意識して取り組んでいる。地域、受け手側が整備されていない。公民館活動を通して、地域の方がサポーターになっていけるとよい。</li> <li>・学校は、保護者や外部に向けて地道に教育内容を伝えている。アンケートには「わからない」評価もあるが、学校が新たなことに挑戦しているためと捉えて、取組を継続してほしい。</li> </ul>
---